



震災から10年に想う

2011年3月11日の東日本大震災の発生から10年を迎えます。震災直後、私は、生まれ故郷である岩手県陸前高田市に駆けつけました。

思い出の街並みは、津波によってすべて流され、大切な友人も失いました。

被災された皆様と同様、深い悲しみは決して消えることなく今でも脳裏から離れません。

この10年の間、被災地では復興に向けた懸命な努力が重ねられてきました。上尾市でも、行政だけでなく自治会、NPOの皆様のご尽力で、陸前高田市と福島県本宮市に対して、ニーズに応じた人的・物的支援が実施されてきました。

こうした取り組みの結果、被災地では、10年の復興・創生期間を経て、新たな街づくりが着実に進んでいます。

一方、上尾市では、いつ起こるとも限らない災害に対し、過去の教訓を踏まえ、実践的な訓練を実施しています。本市においても一昨年の令和元年東日本台風による被害が生じたことから、今回は水害想定での「災害対策本部設置運営訓練」を2月7日に実施いたしました。

訓練では専門家の協力のもと、大規模な台風に伴う水害被害に備えた体制確認、市民や関係機関からの問い合わせ対応、被害状況の把握、情報の収集と共有、市民への周知などの訓練を行いました。災害対策本部では、寄せられる多くの情報を正確に聞き取り、重要度の判断を瞬時に行う必要があります。あらゆるケースを想定しながら、冷静な対応を心掛けることが大切だと改めて実感したところです。

2月13日の夜半には、10年前を思い起こさせる大きな余震もありました。

訓練は繰り返し行うことにより身に付きます。今回の訓練をしっかりと検証し、市民の皆様のご大切な生命・財産を守るため、さらなる防災力の強化に努めてまいります。



陸前高田市での救助活動（2011年3月）



訓練の様子（2021年2月7日）